



次のステージを支える ▶▶▶

「かなめびと」

※組織運営コアスタッフ

養成による 組織基盤強化事業



第3期 支援対象団体

報告会・交流会

～ 事業責任者と事務管理責任者の両輪と組織を超えた「たすかりあう」関係づくりを目指して ～



NPO 法人ボランタリーネイバースが、休眠預金等活用制度の活動支援団体として実施した第3期支援対象団体への組織基盤強化の伴走支援の成果を共有する報告会・交流会の開催報告です。支援対象団体や伴走支援を担当した専門家が集まり、意見交換や交流を深めることで、組織や立場を超えた「たすかりあう」関係を築きました。

■日時:2026年6月30日(火)13:30～16:30

■場所:ウインクあいち1203(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

■参加対象:本事業に関心のある方、NPO 支援に関わりたい専門家

■参加者:73 名

■プログラム:

- ①あいさつ、事業の概要説明、支援対象団体、専門家の紹介
- ②伴走支援事例紹介(6 団体 ※分科会方式で2 会場に分かれて実施)
- ③意見交換「団体内で運営について話す場を持つために必要なこと。継続する工夫」(グループワーク)
- ④おやつとドリンクを楽しみながら交流会

【あいさつ】

中尾さゆりさん(NPO 法人ボランタリーネイバース 理事長)



「かなめびと」とは、現場リーダーだけでなく組織を回すマネジメント人材(コアスタッフ)を指し、その育成を応援しています。また、支援する側・される側と線を引くのではなく、お互いに支え合う「たすかりあう関係」という言葉をキーワードにしています。本日ご参加の支援対象団体や専門家、関係者、そして参加者の皆様全員で、この「たすかりあう関係」を一緒に作っていきたいと思います。

福田文さん(一般財団法人日本民間公益活動連携機構)

第3期の報告会を迎え、これまでに多くの団体が本事業を活用しながら、それぞれの組織づくりに取り組んでこられました。本日も6団体の皆さんが6か月間、どのような課題にチャレンジし、どんな変化を生み出されたのか、ご報告を伺うのを楽しみにしてまいりました。「たすかりあう関係」という言葉がありましたが、この場には支援を受けた団体、これから支援に取り組もうと考えている団体、専門家、コーディネーター、事務局など多様な方々がいらっしゃいます。皆様の事例報告を楽しみにしております。



伴走支援事例紹介「NPO 法人ふぁみりい・らば」

団体概要:「社会で子どもを育てる」を理念に掲げ、世代間交流を通じた地域づくりを目指す団体である。親子のふれあいや託児などの子育て支援を行うほか、育てにくさや不安を抱える親子への相談対応・専門機関への橋渡しを担う。青少年期からの人間育成に取り組み、次世代の健全な成長支援や二次障がいの予防に寄与している。主な活動として、稲沢市委託事業のおもちゃ図書館のほか、不登校児童向けのフリースクール、中高生の居場所（学習支援や余暇活動）、子ども・若者食堂とフードパントリーなど、子どもたちの安心な居場所事業を展開する。

支援の成果目標

- 1) 役職員の対話を通じて中長期に取り組む活動（方針）を明文化する。
- 2) 事業の実施（休止・中止等）の決め方を明確にし、意思決定が行われ、実行できる体制が整っている。
- 3) 組織ならびに役職員が、資源（人・お金・時間）を踏まえた持続可能な運営を行える状態になる。

回数	支援テーマ	支援内容
1	役職員ヒアリング	・ヒアリング項目に沿って関わり方や今後取り組みたいことを検討
2	支援性収入の継続的な獲得を検討する	・寄付（会員）募集の方法・計画を検討する
3	活動を可視化する	・各事業を「理念・ニーズ／資源（人・お金・時間）」の観点から整理・明確化する
4	対話のふりかえり	・これまでの検討結果を振り返り、決めきれなかった点や違和感、不安を言語化する。
5	事業化を検討する	・「小さくやってみよう」「いったん休んでもよいこと」をリストアップする
6	短期的な事業計画を定める／振り返り	・中長期の方針と運営体制の確認

専門家：川北輝さん（津市 NPO サポートセンター理事長）



中長期計画の方向性を決めるにあたり、次の 3 点を意識し、対話を重視し支援した。

1. 継続する事業、やめる事業、新規事業の整理

- ・既存事業のままである場合は過負荷や資金ショート懸念があるため、何をやめるか・保留にするかを議論し、新しい取り組みを導入する余白を作った。
- ・継続事業の 3～5 年後の姿やステップアップ方針を対話で決定した。
- ・ニーズ・できること・他で未実施の領域（可能性のある領域）を掛け合わせ、新規事業を小さく始めるための整理を行った。

2. 必要な収入（金額）の整理

- ・具体的な目標金額水準を仮定し、寄付・会費・自主事業比率を高める意識付けを行った。
- ・内閣府公開の NPO 法人決算情報を参照し、重点的に伸ばすべき収入項目と目安を提案した。

3. 支援者がいなくても話し合いなど物事が進む環境

- ・支援者がいなくても自発的に議論・実行が進む仕組みづくりと組織文化の定着を重視した。
- ・打合せ後にメンバーが即座に話し合い、ボランティア募集チラシの作成やオンライン寄付の QR コード導入等を迅速に形にするなど、高い実行力を発揮した。

ふぁみりい・らばからのコメント

- ・取り組みたいことが広がりがある中、具体的なアドバイスを受け、苦手だった資金面での数値の設定方法や寄付の仕組みを学べたことは大きな収穫であった。
- ・毎月の訪問までにチームで話し合い、小さな目標を持って取り組むとともに、外部に見守られている状況がメンバーの背中を押し、奮起につながった。
- ・17 期目を迎える中で外部の目が入ったことにより、「団体の存在意義やあり方」を言語化してメンバーへ伝えていく重要性を認識できたことに深く感謝している。



伴走支援事例紹介「NPO 法人つながる子育てにじいろ」

団体概要:地域で子育て中の親子に対し、親子のつながりを促進し、助け合い学び合い支え合える子育て支援事業を行う。妊娠期からの途切れのない支援を構築し、子育ての迷いや不安、ストレスを軽減することで、地域で子どもが子どもらしく育ち、親が安心して心地よく子育てできることに寄与することを目指す。

主な活動として、子育て広場やサークル事業、世代を超えた交流サロン、産前産後ケア訪問、ボランティア受入れ等の支援活動を展開する。

支援の成果目標

- 1) 組織の現状をふりかえり、スタッフ間で運営の方向性をメンバーで共有する
- 2) 中長期のビジョンをもった組織運営ができるようになる
- 3) 非営利向けクラウド導入による情報システムの改善

回数	支援テーマ	支援内容
1	現状把握とゴール確認	・中期的活動計画づくりのゴールと進め方を確認する ・計画づくりに向けて「話し合いの約束」を合意する ・ビジョン、ミッション、クレドを確認し仲間の思いを聞き合う
2	目指す社会像と組織課題の整理	・団体の理念をふりかえり現状課題を整理する ・こんな社会を実現したい! 目指したい社会像を描く
3	長期ビジョン・中期ビジョン策定	・団体として10年後にこうありたい姿(ビジョン)を描く ・長期ビジョン実現に向けて5年後の中期ビジョンを描く
4	中期ビジョンの具体化① (中期的活動計画素材出し)	・実効性、実行性のある計画とは何かを確認する ・中期ビジョン実現に必要なモノ・コトを具体的に検討する
5	中期ビジョンの具体化② (中期的活動計画づくり)	・中期ビジョン実現に必要な取組みを整理し重点化する ・ビジョン・プログラム・マネジメントを具体化する
6	ふりかえり	・策定した中期計画案を確認し追加修正を加え合意する ・中期活動計画のはじめの一步を確認する
7	課題の把握・導入するシステムの検討 導入するシステムの決定	・利用しているクラウドシステムや情報システム等における課題を把握する ・複数の法人向けクラウドシステムを比較し、自団体に適したものを選択する ・自団体に適した法人向けクラウドシステムを決定し、導入準備を進める
8	導入支援・システム利用に向けた構築 利用者向け説明会	・非営利団体としての利用申請・手続きの支援を行う ・導入範囲、要件定義に基づき必要な構築、セットアップを行う ・各職員が導入したクラウドシステムを利用できるよう説明会を行う

中期計画作り[専門家:伊沢令子さん(NIED・国際理解教育センター代表)、報告:コーディネーター田口さん]



コアメンバーに加え約30名のスタッフ全員が最低1回は参加した。そのため「目標と道のりの可視化」と「肯定的な熟議と成果の積み上げ」を重視した。毎回目的を確認し、ワークショップ形式で成果を重ね、記録を丁寧に共有した。「自分が参加し意見が反映された計画」となることでスタッフのモチベーションが高まり、単に「作って終わり」にせず今後の実行へつながる大きなメリットを生み出している。

クラウドシステム導入[廣井修平さん(名古屋 NGO センター理事)]第7回、第8回

Microsoft 365 の NPO 向けプランの導入支援を担当した。ヒアリングで判明した情報システムの課題に対し、安価なプランの提案から初期設定、ポータルページの構築やマニュアル作成まで実施した。分かりやすい説明を心がけたが、導入までの期間が短く団体側の負担が大きくなった点は反省点である。現在、各種データや写真が集約・活用されている。



つながる子育てにじいろからのコメント

法人設立10年目、代表交代や新事業に挑戦する好機に応募した。



一番の成果は、勤務調整し、30名のスタッフ全員が参加できた点である。理念が共有され「自分たちの計画」という意識が芽生え、全体のモチベーション向上につながった。ワークショップ後の丁寧な整理・言語化や、長年の悩みだったクラウド導入も具体的に一歩前進した。一方で「自然で伝統的な子育て」という想いの反映不足という課題にも気づけた。日々の業務に追われる中、あえて立ち止まり、エネルギーをかけ集まれたことは未来へ進む貴重な機会となった。

伴走支援事例紹介「NPO 法人なごや Asoviva」

団体概要: 多様な経験やスキルを持つ地域住民が子育て支援に参画し、学習支援や食育事業を通じて子どもの心身の健康増進や地域活性化に寄与することを目指す。家庭や学校で支えきれない部分を地域全体で補い、多世代交流の中で子どもが体験から学び、主体的に生きる力を育むことを理念とする。

主な活動として、不登校等の学習サポートや体験活動、子ども食堂・調理体験、居場所運営、行政や大学等との協働による仕組みづくりを展開する。

支援の成果目標

フリースクールへの理解を広げ、地域社会からの信頼性向上のための基盤づくりのために、ウェブサイトのコンテンツを整理し、団体の活動を「見える化」すること

回数	支援テーマ	支援内容
1	現状把握とゴール設定の共有	・支援の進め方とゴールを共有・確認する。 ・現在のウェブサイトの構成、情報の掲載方法、更新体制などの現状を詳細に把握する
2	複数事業の整理・大分類化とサイト構成の検討	・多数ある事業の整理(大分類を極力少なくする議論) ・サイト構成案の相談、寄付・賛助会員の金額設定など
3	デザイン初期案の検証と関係者の声・素材収集の計画	・作成したデザイン案へのフィードバック ・写真の使い方や更新頻度の相談、関係者の声(素材)の収集
4	ページ構成・デザイン案のブラッシュアップ	・作成されたページの構成案・デザイン案への具体的なアドバイス(文字のメリハリ、メッセージ性、PC/スマホレイアウトの課題)
5	事業領域(5つの領域)の言語化・ネーミング再検討	・ホームページ全体のレイアウトや文字の大きさの相談 ・「5つの事業領域」のネーミング(コピー)の再検討
6	ふりかえり	・最終デザインの確認と持続可能なサイト運用体制の構築支援

専門家: 喜多佐智浩さん(中小企業診断士)



●伴走支援で意識したこと

- ・ホームページ制作を単なるデザイン変更ではなく、多様な活動を整理し外部へ伝える「見える化」の機会と捉えた。
- ・訪問者が理解しやすいよう事業領域の整理を重視し、代表の想いを聞き取り行政や支援者等に安心感が伝わる構成を検討した。
- ・利用者やボランティアらの声を掲載し温かさや現場感が伝わる「顔の見えるサイト」を意識

するとともに、文字の大きさや色のメリハリなど閲覧者目線で具体的な改善提案を行った。

●生まれた変化と今後

- ・サイト制作を通じて団体内で事業整理や発信方法を話し合う機会が生まれ、発信基盤づくりにつながった。
- ・リニューアルサイトを公開水準まで到達させたことは大きな成果であり、今後は継続的な更新が重要である。
- ・本支援は団体の活動・想い・支援の受け皿を整理するプロセスでもあり、今後の継続的な情報発信による信頼形成が期待される。

なごや Asoviva からのコメント

- ・2011年より活動を始め、不登校支援や食堂運営などに取り組んできた。子どもが卒業時に「ここで良かった」と思える組織を目指し支援に応募した。
- ・HP制作にあたり、現場での打ち合わせやモデル協力・撮影を通じ、子どもたち自身も参画した。成果として事業の区分分けにより原点へ立ち返ることができ、スタッフ間で強化・整理すべき点を話し合い定款まで再確認した。専門家との対話でキーワードが整理され目的意識が明確化し、外部への説明が容易になった。さらに、目的意識や思いの共有が進み、学生や卒業生スタッフの「関わって良かった」という声から場の重要性を再認識できた。
- ・現在は安定した拠点維持に向けてクラウドファンディングに挑戦中である。今回の伴走支援を通じ、頭の整理と組織の目的の明確化が得られた大きな成果であった。



伴走支援事例紹介「NPO 法人まぁーる」

団体概要:「多治見市子どもの権利に関する条例」(平成6年制定)の基本理念「子どもの権利を保証するまちづくり」に基づき、人と人とのつながりの中で子育てをすることを次世代に伝え、社会の宝としての「子ども」の成長を温かく支える「地域」の礎になれるよう活動している。

主な活動として、主に乳幼児親子を対象とした集いの場の運営を行う。多治見市からの委託による地域子育て支援拠点「ぽかぽか広場」の運営や「親子ふれあい教室」「BPI.2 プログラム」等を実施するほか、自主事業として「0歳児親子の広場」や園児・小中高生の親向けおしゃべりの場の運営、児童虐待防止を目指す「オレンジリボン」の普及啓発活動(市内祭りパレード参加等)を展開している。

支援の成果目標

- 1) 労務の基盤を作り上げる。
- 2) 委託を受けて運営する拠点の更新に向けて賃金体系を見直す。

回数	支援テーマ	支援内容
1	労務の全体像の把握	・労務の現状に関するヒアリング
2	就業規則の作成①	・就業規則(案)の提示と内容の調整①
3	就業規則の作成②	・就業規則(案)の提示と内容の調整②
4	就業規則の作成③	・就業規則説明会で全体に提示する就業規則(案)の決定と ・就業規則説明会の進め方の確認
5	就業規則説明会	・就業規則(案)の団体内部の説明会 ・就業規則の位置づけや内容の説明・質問や話し合いへの対応
6	労務の体制整備	・労務の手続きや体制整備に関する支援

専門家:宮井陽子さん(社会保険労務士)



- ・就業規則の作成が主な支援内容ではあったが、賃金体系を整理することにより、給与計算の効率化を図ることにつながった。
- ・就業規則・契約書の作成をするにあたり、項目が多いと、これらを今後運用していくのが難しいことが想定されるため、なるべくシンプルに、今後事業所の方でも運用していただきやすいように提案した。
- ・就業規則の作成については、当初は本則・賃金規程と別規程にする予定であったが、複数の規程があることにより運用しきれないという懸念を感じ、本則の中に賃金も含めることにした。

・労務管理を整理しつつ、給与・経理などのバックオフィス業務をどうしたらミス防止や簡素化につながられるか、事業所の現状の聞き取りを複数回に渡って行った。

・出勤簿に各活動の勤怠状況を記載し、これらをもとにして給与計算を行う一連の流れをどのように簡素化・効率化を図るかが課題となっている。

まぁーるからのコメント

・就業規則や雇用契約を整えたことで、委託者とのやり取りやスタッフ増員時の対応に自信が持てるようになった。支援を通じて「まぁーるは将来どうありたいか」を全体でじっくり話し合い、法人として備えるべき仕組みを学ぶ機会が得られた。

・これにより、ボランティア活動という意識から「仕事をしている」意識へと切り替わり、職業として社会の仕組みの一員であることを再認識できた。就業規則によって自分たちの労働環境が保障されたことも大きな喜びである。また、法人基盤を整えている姿勢が若いスタッフにも伝わり、活動への積極性や将来への見通しが生まれた。

・会計業務の改善に向けたアドバイスも得られた。専門家のお二人は常に温かく親身で、複合的な問題に直面した際も丁寧に紐解き、迷うことなく取り組めるようゴールへ導いてくださったことに深く感謝している。



伴走支援事例紹介「NPO 法人釜戸町まちづくり推進協議会」

団体概要: 釜戸町民や訪れる方々に対し、地域活性化やコミュニティ活動を行う団体です。「瑞浪市自然ふれあい館」や公民館の指定管理、JR 釜戸駅の乗車券発売業務などを委託・運営しています。また、夏まつりやホテル鑑賞といった地域資源を生かしたイベント、健康促進事業、空き家活用事業などを通じて、明るく住み良いまちづくりを目指しています。

支援の成果目標	
1) 会計業務の統合・効率化	2) 決裁フローと業務フローの整備
3) 経理規程の整備	4) 属人化予防のためのマニュアル・手順書の整備

回数	支援テーマ	支援内容
1	現状把握 決裁権限の整理 実態に合わせた見直し	・会計・経理・労務の業務フローと課題の確認 ・現行の経理規程・承認プロセス・書式の棚卸と DX 推進方針の確認 ・マニュアル・手順書の活用場面の確認
2	経理規程と各種様式の見直し(実態に合わせた改訂)	・経理規程の内容確認と、実態に合わせた改訂案の策定 ・申請・承認・精算など、実務で用いる各種様式の統合・簡素化
3	インターネットバンキング導入計画、会計王の 入力効率化	・ネットバンキング(MoneyLink)の初期設定と活用法の確認 ・体制に合わせた経理処理手順の検討・実施、およびマニュアル作成
4	会計王の月次チェック 決算準備、方針確認	・会計王の入力状況の月次チェックと源泉所得税ルール策定 ・決算特有業務の整理、税理士との役割分担、チェックリスト作成 ・監事監査・理事会・総会までのスケジュールと資料作成フローの確定
5	決算確認	・会計王による決算内容の確認 ・理事長・監事等関係者を交えた今後の方針確認
6	振り返り、マニュアル確認 整合性	・これまでの支援全体の振り返り ・マニュアル・手順書の全体確認と、月次・年次業務の整理

専門家: 中尾さゆりさん(税理士/ボランティアネイバーズ理事長)



・法人化間もない協議会に対し、複雑化した会計報告や承認フローの改善支援を実施した。規程や様式の見直しにより業務の簡素化・標準化を図り、ネットバンキング連携等による会計入力の効率化を推進した。早期決算スケジュールへの対応や帳簿残高の調整作業を行うとともに、現場と事務局に分散していた会計の整理に努めた。

・任意団体から NPO 法人化に伴う「事業別報告」から「法人全体の会計」への意識転換や、行政会計と法人会計の考え方の違い(資金移動基準から発生主義等への転換)には実務上の負担も大きかった。慣れ親しんだ様式からの移行には難しさもあったが、負担の少ない運用方法を共に検討した。

・「期中整理→決算→振り返り→定着」のサイクルを確立し、無理のない会計体制づくりをサポートしていく。

釜戸町まちづくり推進協議会からのコメント

・NPO 法人化に伴う会計への切り替えと持続可能な決算手続きの確立を目指し支援に応募した。複数ある指定管理事業の会計処理が現場ごとに分散・複雑化していたが、本体で把握できる体制を整えたことで、属人化せず次の人へ引き継げる仕組みができた。

・初年度の決算を共に行ったことで次年度以降の流れが明確になり、テキストの共有により法人内での NPO 会計への理解も進んだ。また、Money Link や会計王の活用、決裁プロセスの簡略化により業務量の軽減も図られた。

・一方で「かなめびと」に依存しすぎない体制づくりの難しさも痛感した。今後は会計事務の外部化やパート雇用なども選択肢に入れつつ、そのための財源確保を組織として検討していく必要がある。親切で丁寧な伴走支援に深く感謝している。



伴走支援事例紹介「NPO 法人ヤトミーティング」

団体概要: 行政の対応が難しい細やかな市民ニーズと、それに対応できる個人・団体とのミスマッチ解消を目指す。市民同士がつながり、助け合って弥富市が魅力的なまちになるよう、市民・市民団体と市の架け橋となり、まちづくりのパートナーとして活動する。主な活動は、市民活動センターやプラットフォームの管理運営、視察・研修等の企画運営、地域活性化につなげる交流促進などである。

支援の成果目標

- 1) 会計上の不明点、不安な点の事務の進め方を把握し、自信を持って会計事務に取り組めるようにする。
- 2) 法人運営の不明点、不安な点の進め方を把握し、自信を持って団体運営に取り組めるようにする。
- 3) ファンドレイジングの考え方に触れて、今後の仲間集め、資金調達について考える。

回数	支援テーマ	支援内容
1	会計に関する現状把握	・現状の経理・会計や税務に関する事務や処理についてのヒアリング
2	法人運営に関する不明点・不安な点の解決	・法人運営に関する不明点・不安な点に関する対話
3	会計に関する不明点・不安な点の解決	・会計に関する不明点・不安な点に対する回答
4	決算における不明点・不安な点の解決	・決算の確認
5	仲間集め・資金調達①	・ファンドレイジングの全体像と位置づけの確認
6	仲間集め・資金調達②	・ファンドレイジングの今後の取組方針の策定



法人運営支援[中尾さゆりさん(ボランティアネイバーズ理事長)](第2回)

NPO 特有の会計・事業区分の不整合を整理し、人件費按分などの実務ルールを設計した。完璧さよりも説明可能性と現場の納得感を重視し、「決めて運用し改善する」姿勢へ転換を促進。課題構造の明確化と意思決定が進み、税理士による次段階の支援へ繋がった。



経理、会計支援[森友子さん(税理士)] 第1、3、4回

第1回で事業全体と経理の問題点を把握。第3回は営利・非営利の考え方を伝え、伸びている委託事業の決算処理をアドバイスした。第4回で決算書や申告書の確認、注記作成を行いつつ、将来を見据え法人税と消費税の判断の違いを説明した。経理担当者が会計知識をもっていたため、一般企業への会計支援に近い内容となった。



仲間集め・資金調達[松浦史典さん(ファンドレイザー)]第5、6回

立ち上げ経緯やメンバーのつながりを紐解き、離脱を「前向きな新陳代謝」と再定義した。緊急度とワクワクの2軸で業務を整理し、オリジナル「作戦シート」を作成。委託を維持しつつ自主事業を育てる方針を定め、明日からできる「最初の一歩」を考え自走を促した。

ヤトミーティングからのコメント

・法人運営において、自分たちが抱えていた不明点や不安点を聞くことができ、解決の道筋等が見えてきました。

・会計においては、日ごろ抱えていた不明点や、税務処理の細かな不安点を回答いただき、処理への迷いが減少しました。決算期に合わせていただけたのも、大変ありがたかった。

・ファンドレイジングでは、自分たちのやりたいことの整理・可視化したことにより、漠然としていたものを、実現可能なプロセスとして捉えられるようになった。

・どの分野でも、ネットや本での独学では、実際の業務にそのまま適用できるか不安があった。専門家に直接相談できたことで、自信をもって取り組めるようになった。



意見交換「団体運営について継続して話していく工夫」(グループワーク)

事例紹介を受け、参加者一人ひとりが感じた「団体内で運営について話す場を持つために必要なこと。継続する工夫」をテーマにグループ内で意見を共有し、今後の活動にどう活かしていくかを深める時間として実施しました。

●グループ内で出てきた意見(一部抜粋)

カテゴリ	「付せん紙」「模造紙」に書かれていた内容
外部支援/伴走支援 のあり方とその頻度	・支援(伴走)する側と受ける側の信頼関係があったのだなと感じました。 ・当事者の視点と外部からの視点をフェア(対等)に扱うことが重要。 ・支援終了後も引き続きゆるやかにサポート(フェードアウト)が続いていく仕組みづくり。
資金調達・ ファンドレイジング	・年間 300 万～1000 万円規模の NPO に対する外部支援や助成金が少なく、資金繰りに苦勞している。 ・持続可能な組織をつくるための資金確保(クラウドファンディング、寄付、認定 NPO の取得など)。 ・助成金会計や NPO 会計特有の難しさ(一般会計との考え方の違い)。 ・自立・自主事業による資金づくりのノウハウや事例を知りたい。
外部視点の導入による 効果(言語化・客観視)	・外部から見てもらうこと ⇒ 新しい視点!気づき!!自分たちにはない新たな視点で客観視できた。 ・話し合いだけでなく「言語化」して見える化することの大切さを実感。 ・課題を整理・言語化することで、誰もが分かる運営となり、不安が減った。 ・外部支援によって団体の強み・弱みが見える化されるのは大きなメリット。 ・HP 作成や広報の見直し、自分たちの活動目的や組織を見直す良いきっかけになった。
広報・PR・IT 活用	・立ち上げ時の HP から、子どもたちの表情や温かさが伝わる HP・広報物へアップデートできた。 ・サイボウズや Google Workspace 等を活用した情報共有・バックオフィス体制の構築。 ・写真などを各スタッフのスマホで止めず、組織の蓄積にしたい。 ・SNS やクラウドをどのように活用して寄付や周知につなげているか。
その他・感想	・他団体の話から、自分たちの足りない部分・強みがクリアに分かった。 ・定例会で「近況(今日この頃)」を話し合ったり、たわいもない会話をしたりする場づくりの大切さ。 ・「何でも相談できるワンストップの相談窓口(税・労務など)」があると非常にありがたい。



ボラネイ☆キャラバン Vol. 52「かなめびと養成による組織基盤強化事業・第3期支援対象団体 報告・交流会」
(ボランティアネイバース「2026 年 6 月 30 日」より)

発行:特定非営利活動法人ボランティアネイバース 編集:青木研輔、田口裕晃 2026 年 9 月発行